様式第１号（第１０条関係）

２０２４年度業務実績報告書

提出日 2025 年 1 月 6 日

１．職名・氏名　特命教授・米田　誠

２．学位　　医学博士、専門分野　脳神経内科学、授与機関　新潟大学、授与年　1990

３．教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
①　担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 臨床病態学Ⅰ（1 単位 毎年開講）看護学科 1 年生　(2024 年度)
②　内容・ねらい 適切な看護を展開するために必要な疾患の病態を把握する能力を修得することを目的とし、各種の疾病に関する基礎的知識と臨床病態を講述した。
③　講義・演習・実験・実習運営上の工夫 スライド・配布資料・課題を、事前に Google classroom にアップロードし、事前学習や復習に役立ててもらった。対面講義時には、事前配布のスライドを提示しながら学習効率の向上を行った。Zoom による遠隔授業においては、スライドを共有しながら双方向性の講義を行った。
①　担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 臨床病態学Ⅱ（1 単位 毎年開講）看護学科 1 年生　(2024 年度)
②　内容・ねらい 適切な看護を展開するために必要な疾患の病態を把握する能力を修得することを目的とし、各種の疾病に関する基礎的知識と臨床病態を講述した。
③　講義・演習・実験・実習運営上の工夫 スライド・配布資料・課題を事前に、Google classroom にアップロードし、事前学習や復習に役立ててもらった。対面講義時には、事前配布のスライドを提示しながら学習効率の向上を行った。Zoom による遠隔授業においては、スライドを共有しながら双方向性の講義を行った。
①　担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 臨床病態学Ⅲ（1 単位 毎年開講）看護学科 2 年生　(2024 年度)
②　内容・ねらい 適切な看護を展開するために必要な疾患の病態を把握する能力を修得することを目的とし、各種の疾病に関する基礎的知識と臨床病態を講述した。
③　講義・演習・実験・実習運営上の工夫 スライド・配布資料・課題を事前に、Google classroom にアップロードし、事前学習や復習に役立ててもらった。対面講義時には、事前配布のスライドを提示しながら学習効率の向上を行った。Zoom による遠隔授業においては、スライドを共有しながら双方向性の講義を行った。
①　担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 臨床病態学Ⅳ（1 単位 毎年開講）看護学科 2 年生　(2024 年度)
②　内容・ねらい 適切な看護を展開するために必要な疾患の病態を把握する能力を修得することを目的とし、各種の疾病に関する基礎的知識と臨床病態を講述した。
③　講義・演習・実験・実習運営上の工夫 スライド・配布資料・課題を事前に、Google classroom にアップロードし、事前学習や復習に役立ててもらった。対面講義時には、事前配布のスライドを提示しながら学習効率の向上を行った。Zoom による遠隔授業においては、スライドを共有しながら双方向性の講義を行った。

① 担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
微生物・免疫学（1 単位 毎年開講）看護学科 2 年生　(2024 年度)、オムニバス。
② 内容・ねらい
微生物・免疫学では、将来、看護師、保健師、養護教員として医療・保健に従事する皆さんが、知っておいてほしい感染症の基礎的知識と臨床上の問題点と対応について講義した。
　また、病原体に打ち勝つ体内のメカニズムが免疫である。免疫が弱くなり様々な感染症が引きおこされる。逆に、免疫が過剰になると、アレルギーや膠原病といった全身の病気を発症する。免疫の基礎的メカニズムとその破綻による疾病についても講義した。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫
スライド・配布資料・課題を事前に、Google classroom にアップロードし、事前学習や復習に役立ててもらった。対面講義時には、事前配布のスライドを提示しながら学習効率の向上を行った。Zoom による遠隔授業においては、スライドを共有しながら双方向性の講義を行った。

① 担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
臨床薬理学（1 単位 毎年開講）看護学科 2 年生　(2024 年度)、オムニバス。
② 内容・ねらい
薬が生体に働く作用（薬理作用）を分子レベルで解説した。同時に、薬が生体に吸収された後、どのように代謝され体外に排泄されるか（薬物の体内動態）についても併せて講義を行った。さらに、病院薬剤業務、薬による副反応や健康被害に関しても取り上げた。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫
スライド・配布資料・課題を事前に、Google classroom にアップロードし、事前学習や復習に役立ててもらった。対面講義時には、事前配布のスライドを提示しながら学習効率の向上を行った。Zoom による遠隔授業においては、スライドを共有しながら双方向性の講義を行った。

①　担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
疫学（1 単位 毎年開講）看護学科 2 年生　(2024 年度)、オムニバス。
② 内容・ねらい
疫学の歴史・意義、疫学に関する健康指標、研究デザイン、信頼性と妥当性、統計解析について講義し、実際の事例等も紹介した。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫
スライド・配布資料・課題を事前に、Google classroom にアップロードし、事前学習や復習に役立ててもらった。対面講義時には、事前配布のスライドを提示しながら学習効率の向上を行った。Zoom による遠隔授業においては、スライドを共有しながら双方向性の講義を行った。

① 担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
研究倫理特論（２単位 毎年開講）健康生活科学研究科（博士後期）１年生　(2024 年度)、オムニバス。
② 内容・ねらい
研究者として誠実で責任ある研究を推進していくために必要な研究倫理について講義した。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫
スライド・配布資料・課題を事前に、Google classroom にアップロードし、事前学習や復習に役立ててもらった。対面講義時には、事前配布のスライドを提示しながら学習効率の向上を行った。Zoom による遠隔授業においては、スライドを共有しながら双方向性の講義を行った。

① 担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 2
　成人・老年保健学特論（4 単位 毎年開講）看護福祉学研究科（修士）1 年生　(2024 年度)
② 内容・ねらい
　成人・老年期の個人あるいは集団の健康維持・増進の全体を、さらにはその疾病、障害の予防・支援の全体を最新の臨床病態から総合的に追求し理解を深めるとともに、論文の内容を理解し、また批評できる能力を養うことを目標とする。加齢に伴う様々な身体的・生理的老化現象や特有の臨床病態を講述した。特に、認知症は看護社会福祉の面から重要な問題の一つであり、疾病の病因・症状・治療・予防について最新の知識を提供するとともに、院生からも関連する論文の内容を紹介解説し、参加者全員で論文内容について批評を加えた。

③　講義・演習・実験・実習運営上の工夫
　対面講義時には、事前配布のスライドを提示しながら学習効率の向上を行った。Zoom による遠隔授業においては、スライドを共有しながら双方向性の講義を行った。

① 担当科目名（単位数）主たる配当年次等（2024 年度）（平井教授とオムニバス）
環境保健学特論（2 単位 毎年開講）看護福祉学研究科（修士）1 年生　(2024 年度)

② 内容・ねらい
環境と健康・疾病に関する問題について両者の関係について理解を深めるため、近年急速に変貌している様々な環境要因が正常範囲を逸脱した場合に発生する健康障害や疾病について臨床医学的な見地から講述・討論した。また、健康障害や疾病から環境要因について評価を加え、最新の科学的根拠に基づいた健康増進・疾病予防の可能性を探った。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫
Zoom による遠隔授業においては、スライドを共有しながら双方向性の講義を行った。

(2)その他の教育活動

内容
〈非常勤講師〉
・「加齢と老化」　福井大学医学部医学科 4 年生（2024 年度）オムニバス
・「研究デザイン特論」　福井医療大学大学院 1 年生（2024 年度）オムニバス
＜客員教授＞
・福井大学　高エネルギー医学研究センター・附属病院　遺伝診療部

４．研究業績

(1)研究業績の公表

① 著書

１． 米田誠．橋本脳症．免疫性神経疾患ハンドブック（改訂第２版，南江堂）2024.

２． 井川正道，岡本裕嗣，米田誠．赤色ぼろ線維・ミオクローヌスてんかん症候群．先天代謝異常症クリニカルファイル，診断と治療社，228-231，2024.

【２本】

② 学術論文（査読あり）

１．種本　真将，鈴木　秀一郎，横川　和樹，齋藤　太郎，岩原　直敏，津田　玲子，渡邊　修，高橋　幸利，米田　誠，久原　真．てんかん発作を主徴とした自己免疫性脳炎の臨床的特徴と早期治療におけるスコアリングの有用性の検討．臨床神経，64：272－279，2024.

【１本】

③ その他論文（査読なし）

1. 松永晶子，米田誠．橋本脳症と精神疾患．臨床精神医学 53 巻 4 号、503-509，2024.

2. 松永晶子，米田誠．甲状腺機能低下症．症候性・器質性精神障害新柳雄ガイド（2024 年版）．精神科治療学 39 巻増刊号、11－12､2024.

【２本】

④ 学会発表

１．Increased brain oxidative stress related to amyloid deposition in patients with Alzheimer’s disease．井川正道、岡沢秀彦、上野亜佐子、辻川哲也、森哲也、牧野顕、清野泰、小坂浩隆、米田誠．第 65 回日本神経学会学術集会，令和 6 年 5 月 29~6 月 1 日，東京

２．Establishement of registry for nutoimmune cerebellar ataxia and an assay system of autoantibodies．藤井信太朗、矢口裕章、工藤彰彦、江口克紀、野村太一、上床尚、白井慎一、岩田育子、松島理明、林宏至、田中惠子、米田誠、木村暁夫、下畑享良、高橋祐二、水澤英洋、矢部一郎．令和 6 年 5 月 29~6 月 1 日，東京.

３．A retrospective study of autoimmune cencephalitis over 21-year period in a single instisution.工藤彰彦、矢口裕章、江口克紀、野村太一、上床尚、白井慎一、岩田育子、松島理明、田中惠子、木村暁夫、渡邊修、米田誠、矢部一郎．令和 6 年 5 月 29~6 月 1 日，東京.

４．Proposal of a new disease concept, anti-NAE antibody-associated disorders (NAEAD)．松永晶子、菊池昭夫、井川正道、米田誠．令和 6 年 5 月 29~6 月 1 日，東京.

【４件】

⑤ その他の公表実績

招待講演・シンポジスト

１． 米田誠.「ミトコンドリア病」を通して考える研究の動機・発想・方法・実装．第 13 回研究デザイン論（公開セミナー），福井医療大学．2024 年 7 月 12 日，福井市.

２． 米田誠.「橋本脳症と抗 NAE 抗体」，イブニングセミナー，第 36 回 日本神経免疫学会学術集会．令和 6 年 10 月 3 5 日，富山国際会議場（富山）.

【２本】

(2)科研費等の競争的資金獲得実績
【学外】 〈文科省科研費〉 1. 自己免疫性脳炎における抗神経抗体の CBA に代わる新規迅速・定量的測定法の開発．日本学術振興会　科学研究費助成事業　基盤研究(C)．分担（代表：松永晶子） 2. 独居高齢者の社会的支援を介入した在宅運動のアドヒアランスとフレイルの予防改善効果．日本学術振興会　科学研究費助成事業 基盤研究(C) 分担（代表：平井一芳） 〈厚生労働省研究費〉 1. 超希少難治性疾患である免疫介在性小脳性運動失調症の疾患レジストリ構築および治療法確立を目的としたエビデンス創出研究　厚生労働省　難治性疾患実用化研究事業（AMED）分担（代表：矢口裕章） 【学内】 1. 令和 6 年度〔レビー小体型認知症に潜む治療可能な「橋本脳症」の実態解明と診断指針の作成　－福井県の認知症診療の向上をめざして―．代表． 2. 令和６年度〔個人研究推進支援〕レビー小体型認知症に潜む橋本脳症の実態解明と免疫療法の評価．代表．
(3)特許等取得
なし
(4)学会活動等
1.　米田誠．査読委員（グループ長）．第 65 回日本神経学会学術集会，東京．

５．地域・社会貢献活動

①国・地方公共団体等の委員会・審議会　（それぞれの名称、業務内容、担当期間） ・福井県高次脳機能障害支援普及事業委員（平成 26～現在に至る） ②兼業規程で業務と見なされる範囲内での）企業等での活動 ・神経内科専門医が不足している地域における神経難病・認知症患者の診療による医療貢献（社団医療法人中村病院，社団医療法人木村病院） ③その他 ・福井県てんかん談話会（世話人） ・福井県脳機能画像研究会（世話人） ・北陸神経内科談話会（世話人） ・中部老年期認知症研究会（世話人） ・神経科学研究会（世話人）［全国］

６．大学運営への参画

(1)補職
看護福祉学部長・看護福祉学研究科長（修士）（平成 31 年 4 月～現在） 健康生活科学研究科長（博士後期）（令和 5 年 4 月～現在）
(2)委員会・チーム活動
・教育研究審査会　委員（学内） ・部局長会議　委員（学内） ・教育研究委員会　委員（学内） ・入試制度検討委員会　委員長（学内） ・地域連携本部　委員（学内） ・利益相反審議委員会 委員長（学内） ・輸出管理委員会　委員（学内） ・研究公正委員会　委員（学内） ・大学院委員会　委員（学内） ・保健管理センター（学校医） ・学生献血サークル「オープン・ザ・セサミ」顧問
(3)学内行事への参加
・オープンキャンパス運営・学部長の言葉
(4)その他、自発的活動など